

～多摩地域の複数の市町村からなる市民団体の広域的な活動を支援します～

# 募集します 2022年度 広域的市民ネットワーク 活動等事業の助成団体



「多摩地域を元気にしたい」「人の役に立ちたい」そんな市民活動を広域的に行っている皆さんのイベントや事業を応援します。日頃の皆さんの広域的な活動の成果や発表の場の経費の一部を助成することによって、市民ネットワークや相互交流を推進し、多摩地域のひとつづくり、まちづくりへとつなげていきます。詳細はパンフレットか当調査会のホームページ (<https://www.tama-100.or.jp>) をご覧ください。

※この助成制度は、2022年度予算の成立を条件とし、その予算の範囲での実施になります。

募集期間

2021年10月18日(月)～12月2日(木)

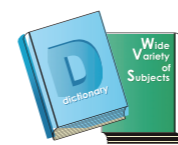
新規団体向け 説明会

日時:2021年10月20日(水) 18:00～  
場所:多摩交流センター第3会議室

※説明会の参加には事前申込が必要です。10月18日(月)までに、下記問合せ先に電話にてお申し込みください。その際、団体名・代表者名・ご連絡先を伺います。  
※新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者は各団体1名までとします。会場では必ずマスクを着用いただき、発熱など体調不良の症状がある方は、参加をご遠慮ください。  
※説明会の参加は助成申請の要件ではありません。

問合せ先

公益財団法人 東京市町村自治調査会 事業部 企画課  
東京都府中市新町 2-77-1 TEL 042-382-7781 受付時間：平日 9:00～17:00



特定非営利活動法人  
**東京雑学大学**

※受講の際は、必ずマスク着用のこと!

2021年11月講義案内

(受講料：会員は無料・会員以外は1回につき500円)

日時	講義テーマ	教授	教場
11月4日(木) 14:00から	万葉集の山をよむ	小野 寛 氏 (駒澤大学名誉教授・ 高岡市万葉歴史館(富山県)名誉館長)	武蔵野スイングホール 南棟10階 スカイルーム1 (JR武蔵境駅北口 徒歩1分)
11月11日(木) 14:00から	高齢社会と認知症	平塚 秀雄 氏 (佐々総合病院顧問・元同病院院長)	田無総合福祉センター 3F (田無公民館代替施設) (西武新宿線田無駅北口 徒歩12分)
11月18日(木) 14:00から	昔話の“語り”を味わう	高野 正美 氏 (読手・語り手)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館 3F)
11月25日(木) 14:00から	武蔵国・さきたま古墳群の盛衰	鶴岡 道夫 氏 (かながわ考古学同好会副会長)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館 3F)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原) 東京雑学大学ホームページ <http://t-zd.life.coocan.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、11月講義を中止させていただく場合があります。詳しくは東京雑学大学までお問い合わせいただくか、東京雑学大学のホームページをご覧ください。

## 「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

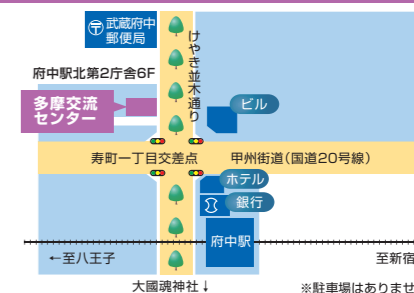
〒183-0056 府中市寿町 1-5-1 府中駅北第2庁舎 6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>

(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的なネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



## 編集後記

- 10月です。本号では、2年ぶりの開催となる当調査会が協賛している「愛らんどリーグ」の視察の様をお伝えする予定でしたが、新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言発出の影響で、昨年に続き中止となりました。今年こそはと練習に励んでいた島しょ地域の子どもの残念な顔が目につきます。
- 「愛らんどリーグ」は、島しょ地域の子どもたちがサッカーを通じて相互の交流を深めることを目的としています。東京都の島しょ地域は大小200の島々があり、北は大島から南は小笠原まで11島・2町7村に人々が暮らしています。各島は個性豊かで美しい自然に恵まれ、島の特性を活かした農業や日本全体の約4割を占める排他的経済水域は我が国屈指の好漁場となっており水産業が活発に行われ、また、自然が織りなす貴重な癒しの空間を求め本土から訪れる観光客をもてなす観光業も盛んです。私たちはこうした島民の営みによって島の恵みを受けます。
- 島しょ地域がその役割を永続的に果たしていくためには、住民の定住と健全な地域社会が形成されることが重要となります。子どもたちが成長し、島に暮らしリーダーとなって協力しながら自立した魅力溢れる島づくりに取り組んでいくうえで、この「愛らんどリーグ」はその礎となるものと考えています。コロナが収束し、来年こそ子どもたちの弾ける笑顔とともに交流を深める場となることを祈念します。
- 去る7月28日に、「オール東京62気候変動対策研究会」の一環として地球温暖化対策の「緩和策」及び「適応策」の第1回分科会を開催しました。当日は、アドバイザーからの講演、先進的に取り組んでいる自治体からの事例発表を行った後、参加自治体職員により、これらの課題について意見交換を行いました。この中で、取組を進めるには、防災や健康など多方面の関係部署に跨る事業展開が必要となりますが、庁内調整に時間を要するといった共通の意見が出されました。このことは、自治体へのアンケート調査でも同様で、その他、住民や事業者による理解を得るのが難しいといった意見が多く寄せられています。このことから、未だ地球温暖化に対する社会全体の理解・認識が不足していることを実感しました。
- 先般、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、「人間の活動が、温暖化を引き起こしていることは疑いの余地がない」と初めて断定するとともに、地球の平均気温が2030年前後には、産業革命前に比べて1.5度上昇するとの報告書を公表しました。これは、2018年の報告書より10年ほど早まっており、地球温暖化対策は待たなしの状況です。これまで以上にスピード感を持って対策に取り組むことが必要です。コロナ対策同様、国民全体が危機感を共有し一体となってこの局面に立ち向かうことが求められます。そのためには、地球温暖化による影響や対策の重要性を一人ひとりが自分事と捉える普及啓発が必要となります。当調査会は、自治体に取り組む普及啓発活動が実効性あるものになるよう支援していきたいと考えています。

(K・K)